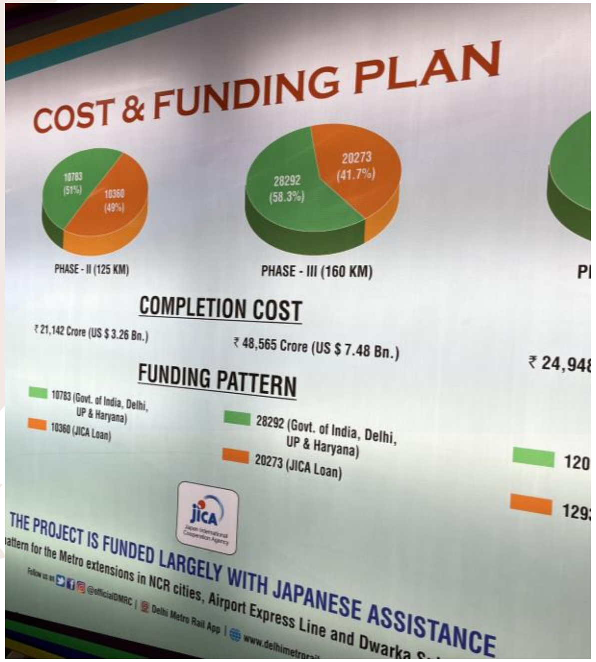
インドとブータン王国訪問報告

3年ぶりの海外訪問

- 1月4日から10日までインドとブータンを訪問しました。羽田からインドの首都デリーまでは約10時間のフライトです。
- 21年ぶりのニューデリーでしたが、機上から見る雲の色が少し赤茶けていて、大気汚染の影響だということがすぐわかります。着陸3分前になってやっと地上が見えてきました。
- ニューデリーの大気汚染指数は世界でもトップクラスの指数とのことです。国民の健康を考えると、これは大きな課題だと思います。

デリーメトロの視察

- JICA支援により現在も工事が進められているデリーメトロの視察をしました。
- 総事業費の約半分が日本の円借款です。路線は9本あり、総延長約348 KM、 駅は250以上という世界屈指の規模となっています。1日当たり500万人の集客数で、女性専用車両も設置し、女性の働く環境作りにも貢献しています。
- 日本と同じシステムで運営されているので、時間通りに列車が入ってきます。駅構内列車もゴミがなくとても清潔です。
- 日本と違うのは、改札に入る前に手荷物検査としてX線検査があることです。
- インドの一般の皆さんに日本の援助がとてもよく分かる形で実現した素晴らしい事業だと思います。



ヤムナ川流域
諸都市下水整備事業

- オクラ下水処理場の視察をしました。
- ヤムナ川はヒマラヤの氷河を源流とし、首都デリーやタージマハルを擁するアグラを通過してガンジス川に合流する全長1370KMの河川です。
- インド北部のデリー首都圏のヤムナ川流域諸都市における急激な人口増加と、工業化 ・都市化によって深刻化しているヤムナ川の水質汚染に対し、下水処理場新規建設補修等により下水処理能力を改善させ、流域住民の衛生環境・健康状況の向上を図るための事業であります。
- 日本はJICA を通じてこの事業の支援に円借款で636億円を拠出しています。下水処理の状況を視察しましたが、取水口から流れる黒い色の水の臭いは今まで見たことの無い状況でしたが、処理が終わった水は透明となっていました。
- 大国のインドでは首都に人口流入が多く、川の浄化のためには下水整備の普及と国民の意識向上が重要な課題かと思いました。

インド環境・森林・気候変動大臣表敬訪問

- インドのブペンドラ・ヤーダブ環境・森林・気候変動大臣にお会いしました。
- インドは2070年までに CO_2 ゼロを目標に、日本は2050年までにCO_2ゼロを目標にしていますが、この目標達成は厳しい道のりであり、今後インドとの協力無くして実現出来ないと思います。共に協力して前進して行くことを約束してきました。

バラテイ・プラビン・パワール副大臣表敬訪問

- バラテイ・プラビン・パワール保健家族福祉担当副大臣を表敬しました。
- 2019年にベスト女性国会議員賞に選ばれた議員とのことで、とても素敵な人でした。日本では小・中学校教育の中で栄養教育をしているということを話したところ、大変興味を持たれました。
- また日本の保健分野においての支援に感謝をし、日本の長寿命に対してのノウハウがほしいというトピックの中で、食べ方の重要性を認識しておられました。私は現在党の食育調査会長をしていますが、日本には世界に誇る法律である食育基本法がある事を説明しました。

*ISA*の事務局長を表敬

- ISA（太陽に関する国際的な同盟）事務局長であるエージェイ・マツール博士にお会いしました。
- このISAの活動は、太陽エネルギー普及拡大のための資金調達、そして加盟国の技術及び金融に関する能力開発支援などであります。2015年11月のCOP21開催期間中に、フランス政府とともにインド政府が設立いたしました。我が国は2018年10月インドのモディ首相訪日の機会をとらえてISAに加盟しました。
- 特にマツール博士が強く訴えていたのは、アフリカやアジア諸国、そして島諸国などへ太陽光発電の援助していきたいとのことでした。日本政府はは2022年にJBIC・JICA・NEDOとともにISAとの協力に係る覚書に署名いたしました。

ブータンへ
西岡ミュージアムと農業機械化センター視察

- 今回のブータン訪問では、ダショー西岡京治さんの素晴らしい功績を知ることが出来ました。

- 西岡さんは海外技術協力事業団のコロンボ計画の農業指導者として1964年にブータンに赴任され、1992年帰国直前に敗血症に罹り死去するまで、ブータンの農業の近代化に貢献されました。

- 西岡さんが指導するまでは、米中心の農業で野菜の栽培はしていなかったそうですが、日本から導入した野菜・果物の栽培や養蚕などを広めました。その上、荒地の開墾、品種改良、野菜の種子の配布、肥料の配布、小型耕運機、脱穀機の貸し出しなどすすめたそうです。

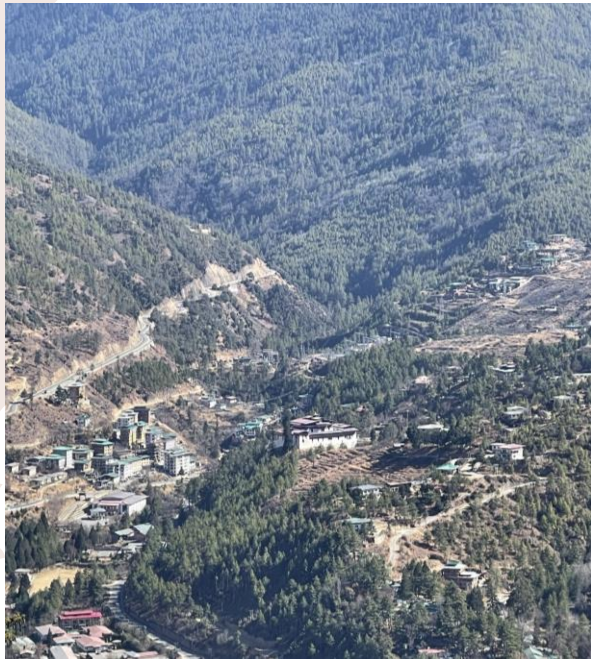
- 1980年には4代国王より、ダショー＝「最高の人」という意味のブータンで功績のあった人に贈られる最高の爵位を授与され、「ブータン野菜の父」と呼ばれているそうです。

- ちなみブータンでは、正式な装いでは色のある布を肩から腰に掛けるのですが、王様はゴールドを表した黄色、次のダショーは赤、そして役人は青で、平民は白を身につけます。私の案内をしてくれた人も常に白い布を持参していて寺や役所に入る時にはその布を掛けていました。

ブータンの国民総幸福量

- ブータンは世界一幸せな国といわれていますが、それは国民総幸福量に基づく国造りを実践しているからです。
- ブータンでは数年に一度、国民一人一人に質問票を出してもらい、その結果から幸福量が低い地域では何が原因なのかを調べて、国造りに生かされることになっているそうで、国民に常に寄り添う姿勢を感じました。
- また森林は人々の幸福のために必要ということで、農業立国を継続して進めている中で、森林の保護育成に力を入れているとのことです。憲法によって国の自然保護のために最低60%が常に森林に覆われていることが規定されていて、現在は70%を超えているそうです。

パロ谷
農業総合開発計画視察

- JICAによるパロ地区の農業基盤整備を高台から視察しました。日本の山間部に見られるような、美しく整備された田んぼが広がっていました。

- 現在でもJICAでは、賃耕のための農業機械整備計画、農業機械化プロジェクトや温帯果樹振興プロジェクトなどを進めています。市場を視察しましたが、温州蜜柑が沢山売られています。ブータンの人々は日本の蜜柑をオレンジと呼んでました。このプロジェクトは2022年3月14日から2027年3月15日までの5年の期間続いていきますが、沢山の蜜柑が生産され輸出が進み農業者が豊かになればと思います。